

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心に、地域の歴史や文化遺産に対する研究をおこない、その成果を文化遺産叢書として2008年度以来公刊してきた。その第30集となる本書は、京都府北部に関する京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）である「京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり」（2022.23年度）をまとめたものである。特に舞鶴では、本叢書同第11集『舞鶴地域の文化遺産と活用』（2016）、同第12集『「丹後の海」の歴史と文化』（2017）、同第14集『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』（2018）、同第16集『舞鶴の地域連携と世代間交流 井上奥本家文書調査報告』（2019）につづく5冊目の調査研究の成果となる。

本書には、数年間にわたる共同研究のなかで実施した、舞鶴地方史研究会との木船衛門家文書調査を中心に、東舞鶴高校との連携授業、MALUI連携WEB「まるまる舞鶴」の企画・公開等の成果、研究をまとめている。

いずれも舞鶴地方史研究会・舞鶴市郷土資料館や京都府立東舞鶴高校、地域で活動する方々のご協力を得ており、またみなさん自身に地元の歴史、文化遺産をまとめていただいた。大学のみでは、調査範囲・方法が限られることも多く、このような地域との協働作業が今後の調査・活用では重要となる。

これまでの舞鶴地域のACTRで調査・研究を進めた井上奥本家文書や舞鶴幼稚園資料は舞鶴市指定文化財となり、2023年度から新修舞鶴市史編さんも開始された。いずれもACTRの調査・研究成果と結びついている。舞鶴の調査・研究・活用は2024年度で12年目に入るが、これから一層、地元のみなさんと進めていきたい。

京都府立大学文学部歴史学科